

基幹システムのオープン基盤への完全移行

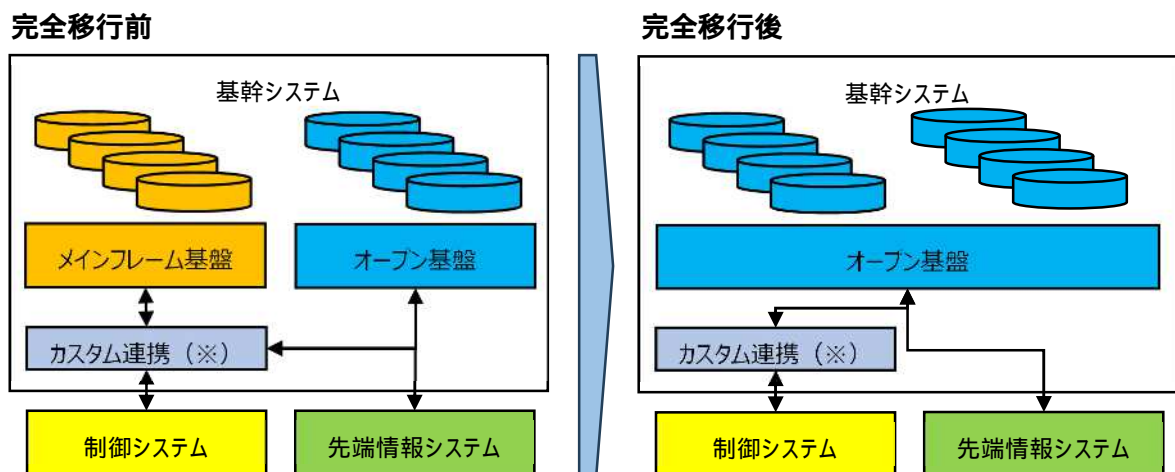
当社は全社における基幹システムをオープン基盤（さまざまなメーカーのソフトウェア、ハードウェア製品を組み合わせて構築しているシステム）に完全移行し、今般運用を開始しました。

これまで当社ではシステム障害発生時の影響を最小限に抑えるために、信頼性が高いメインフレーム基盤（大型のコンピューターシステム）で基幹システムを稼働させてきました。しかしながら、メインフレーム基盤は独自規格で構築されているために、システム構成の選択肢が限定され、進歩が著しい先端情報システムの活用が難しい状況にありました。

こうした課題認識により 2000 年代初頭から基幹システムのオープン化に着手し、段階的に移行を進め、メインフレーム基盤とオープン基盤を併用してきました。

今回のオープン基盤への完全移行により、基幹業務（受注・調達・生産・販売・入出金事務等）や計画業務（販売予算、生産計画等）、管理業務（財務会計、原価管理等）を支える基幹システムの統合や、生産設備の制御システムとの連携等、1,000 万ステップ超規模のシステム更新が完了しました。これにより、AI 等の先端情報システムの活用も容易となり、基盤システム保守運用に携わる技術者の確保、運用費用の大幅な低減等のメリットが見込まれます。

当社は「中期経営計画 2023」における基本戦略である「環境変化にも揺らぐことのない持続可能な経営基盤の確立」を目指して、業務効率化や安定生産に資する業務改革、データ資産の活用による付加価値の創出に努めてまいります。



メインフレーム基盤では他システムとの連携にはカスタマイズが必須であり、また、AI 等の先端情報システムが提供する API (Application Programming Interface = 第三者が開発したソフトウェアやアプリケーション等を共有する仕組み) を利用することはできなかった。オープン基盤への移行により他システムとの連携・活用が容易になる。

本件に関するお問い合わせ先：
情報システム部（電話：044-271-3350）